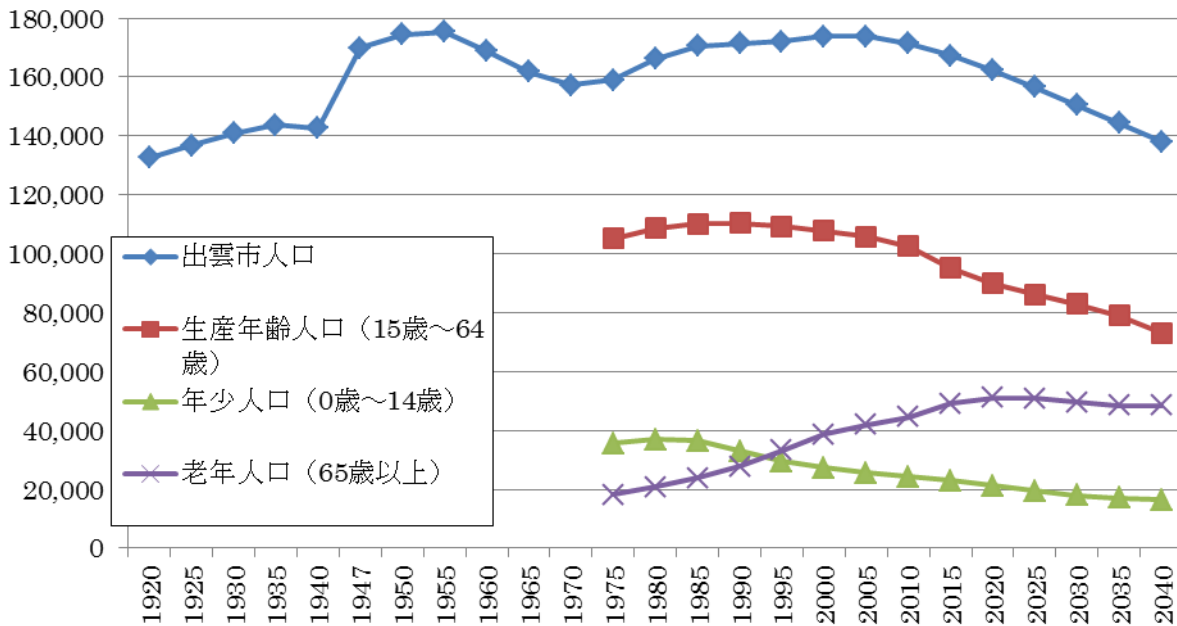


出雲市の人口現状分析

(1) 年齢3区分別人口の推移と将来推計



※2010年（平成22年）までの総人口は、国勢調査から作成。

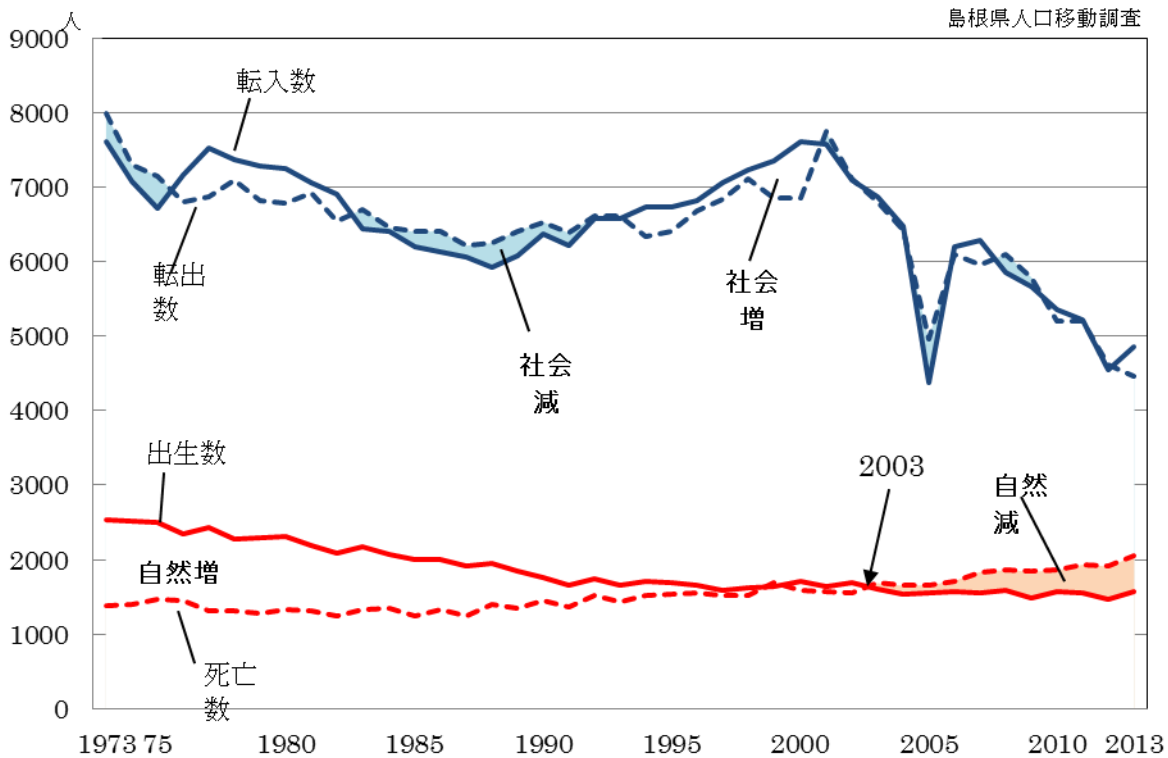
※2015年（平成27年）以降の人口は、社人研の推計値から作成。

※2010年（平成22年）までの3区分人口は国勢調査から作成。

【年齢3区分別人口の推移を分析】

- 1970年（昭和45年）までの年齢3区分人口は不明であるが、概ね生産年齢人口は人口の増減に比例していたものと想定される。
- 生産年齢人口については、1990年（平成2年）までは増えていたが、同年以降減少に転じ、現在まで減少が続いている。
- 年少人口については、1980年代は増えていたが、1990年代以降、長期的に減少傾向が続いている。1995年（平成7年）には老年人口を下回った。
- 一方、老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均寿命が延びたことから、一貫して増加を続けている。

(2) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響



※旧 2 市 5 町、出雲市等の住民基本台帳人口移動（県集計）から作成。その年の 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までの届け出数（島根県人口移動調査から）

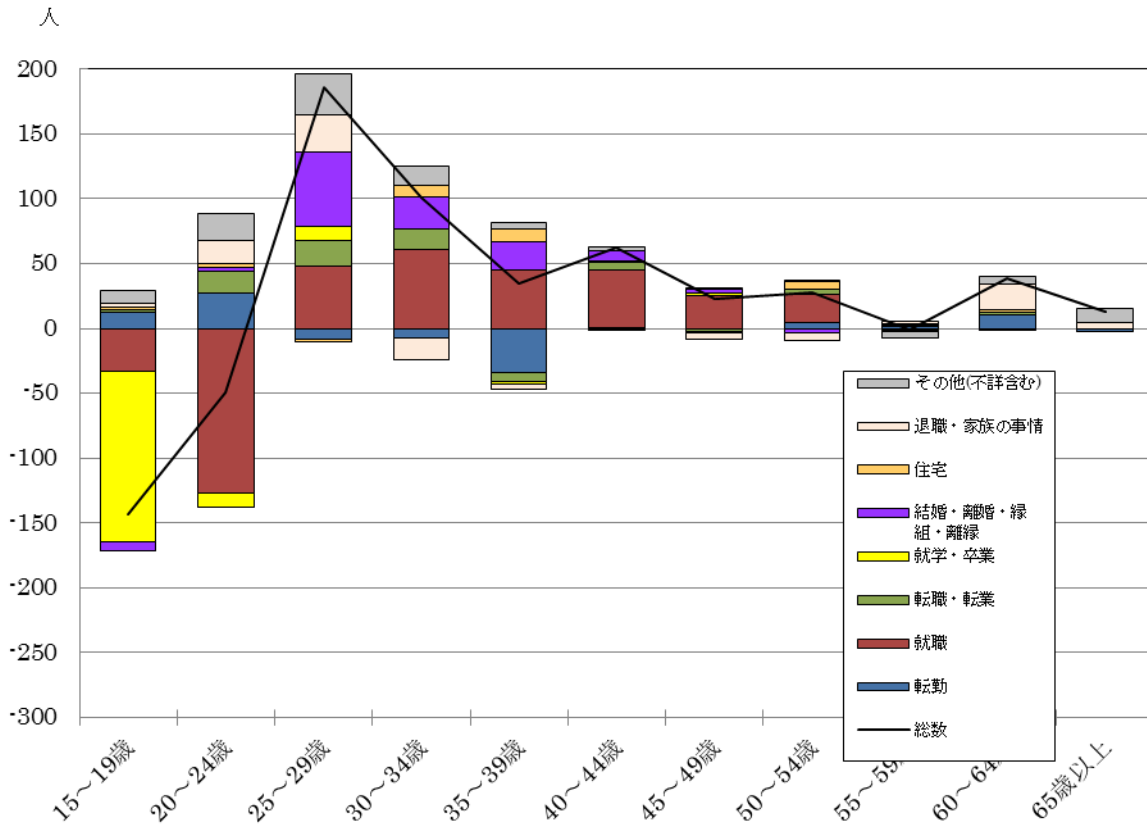
【総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響の分析】

- かつては、出生数が死亡数より多かったが、2003 年（平成 15 年）以降は、逆転し、自然減が増えている。
- 1974 年（昭和 49 年）のオイルショックまでは高度経済成長で転出数が転入数より多かった。その後、転出数が減り、U ターンなどの転入数が増えたが、1985 年（昭和 60 年）ごろから転入数が減り、1989 年（平成元年）ごろをピークに転入減となり社会減に続いた。2004 年（平成 16 年）ごろから転入数が上回り、再び社会増になっている。（2000 年（平成 12 年）まで）
- 2001 年（平成 13 年）以降、社会増減については、転入数及び転出数の差がプラスになる時期とマイナスになる時期があったが、2010 年（平成 22 年）以降は、若干ではあるが、社会増の傾向が続いている。要因としては、近隣自治体からの転入者増と市内企業に勤める日系ブラジル人の転入増が考えられる。
- 2005 年（平成 17 年）に旧 2 市 4 町が合併し、新・出雲市になったことから転入・転出者数が減少している。（旧 2 市 4 町での転出入件数がカウントされないため）

(3) 年齢階級別の人口移動の状況

年齢階級・移動理由別移動者数（原因者）

【2012年（平成24年）10月～2013年（平成25年）9月】



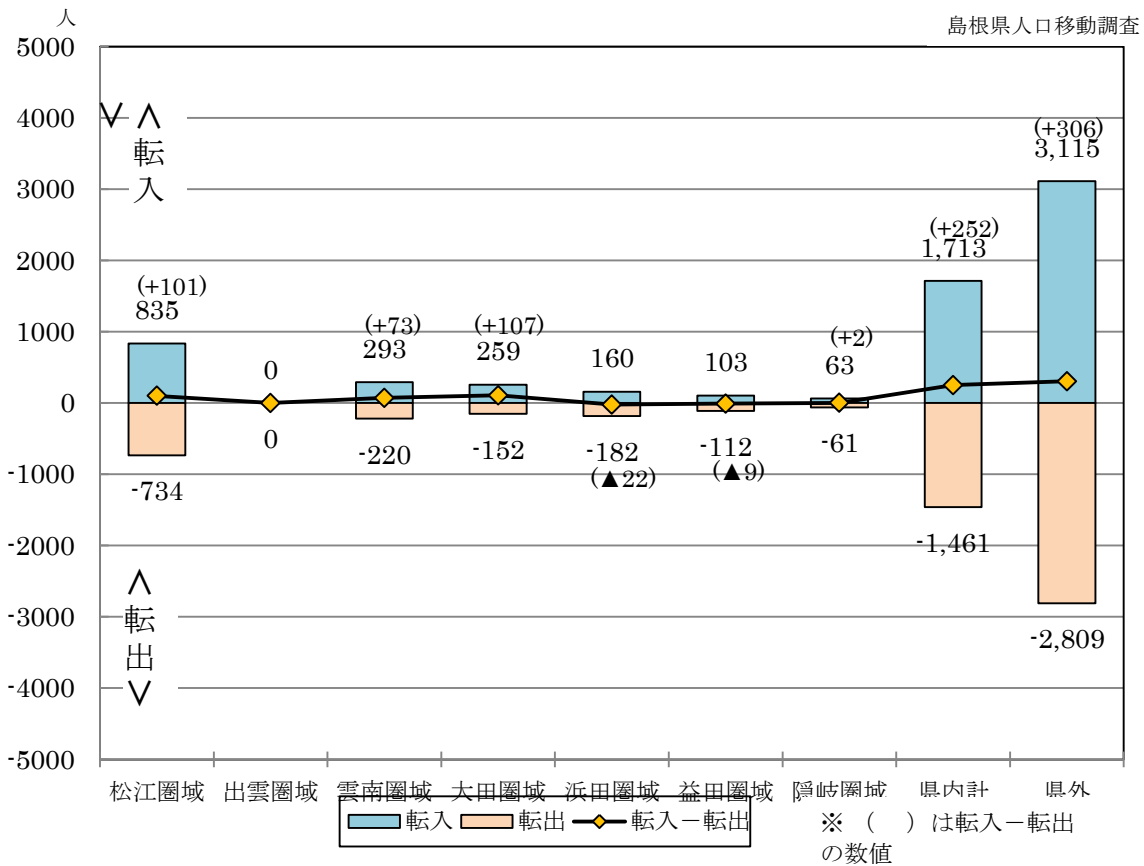
【年齢階級別の人口移動の状況の分析】

- 15歳～19歳は転出数が多く、就学・卒業・就職による要因が大きい。
- 20歳～24歳も転出数が多く、就職による要因が大きい。
- 25歳～29歳は転入数が多く、結婚等、就職による要因が大きい。
- 30歳以降も就職による転入が多く、他住所地からUターンなどにより出雲市内に転入するケースが多い。
- 35歳～39歳で転勤による転出が多くなっているが、大規模事業所等での異動によるものが考えられる。

(4) 県内地域別の人口移動の状況

転入者の従前の住所地、転出者の転出先

【2012年(平成24年)10月～2013年(平成25年)9月】



< 1 > 近隣市町村との転出入 (2011年度～2013年度)

	2011年度 平成23年度(4月～3月)			2012年度 平成24年度(4月～3月)			2013年度 平成25年度(4月～3月)		
	転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減
松江市	679	678	1	677	731	-54	799	696	103
浜田市	130	129	1	136	118	18	121	139	-18
大田市	222	140	82	210	116	94	214	112	102
安来市	55	39	16	54	61	-7	36	38	-2
江津市	62	49	13	55	36	19	39	43	-4
雲南市	238	145	93	206	142	64	186	159	27
奥出雲町	43	49	-6	49	37	12	77	49	28
飯南町	16	13	3	22	14	8	30	12	18
合計	2,328	2,082	246	1,653	1,458	195	1,713	1,461	252

※住民基本台帳人口から。県の人口移動調査の数値とは一致しない。

< 2 > 県外からの転入・転出（上位5県）【2013年度（平成25年度）】

	都道府県名	転入	転出	増減
1	広島県	398	311	87
2	大阪府	256	266	-10
3	鳥取県	248	226	22
4	岡山県	204	221	-17
5	東京都	190	195	-5
参考	国外	528	307	221
	合計	3,115	2,809	306

※住民基本台帳人口から。県の人口移動調査の数値とは一致しない。

【人口移動の状況の分析】

- 大田圏域、松江圏域、雲南圏域からの転入者が増えている。
- 県外からの転入・転出で最も多いのは広島県。このことから就職・進学等で広島県との結びつきが強いことがよくわかる。参考として国外をあげているが、多くのブラジル人が出雲村田製作所に勤めていることからこの数字が上がっているものと想定される。

(5) 近年の外国人国籍別人口の推移

国籍	2012	2013	2014	2014
	H24. 3. 31	H25. 3. 31	H26. 3. 31	H26. 11. 30
ブラジル	849	901	1,039	1,314
中国	481	479	455	427
フィリピン	160	163	165	169
韓国	143	142	138	137
その他	174	143	172	207
合計	1,807	1,828	1,969	2,254

※住民基本台帳から

【近年の外国人国籍別人口の推移の分析】

- 前で述べたとおり、ブラジル人が最も多く、次いで中国、フィリピン、韓国となっており、中国人・フィリピン人の女性は日本人との結婚による在住者、工場等の就業者と思われる。
- ブラジル人はここ2年半で400人以上増えており、工場の就業者だけでなく、その家族の転入も増えていると思われる。（外国人増のほとんどがブラジル人増）

(6) 出雲市の未婚率の現状（直近過去3回の国勢調査の結果）

	男性			女性		
	2010年 平成22年	2005年 平成17年	2000年 平成12年	2010年 平成22年	2005年 平成17年	2000年 平成12年
20歳～24歳	89.2%	90.1%	88.7%	84.4%	84.9%	83.1%
25歳～29歳	65.0%	65.2%	64.1%	53.3%	52.0%	47.0%
30歳～34歳	43.0%	42.8%	38.8%	28.0%	24.8%	21.1%
35歳～39歳	32.0%	28.8%	24.1%	16.4%	13.8%	9.6%
40歳～44歳	25.7%	20.9%	17.6%	12.0%	7.6%	5.3%
45歳～49歳	20.2%	16.2%	13.5%	7.4%	5.4%	3.7%
50歳～54歳	16.5%	12.5%	8.3%	5.3%	3.6%	3.8%

【出雲市の未婚率の現状（過去3回の国勢調査の結果）の分析】

○2010年（平成22年）と2000年（平成12年）との未婚率を比較して

男性の20代はあまり変わらないが、30代前半において約4%増、30代後半以降で約7～8%増となっている。

一方、女性では20代前半はあまり変わらないが、20代後半で約6%増、30代・40代前半で約7%増、40代後半で約4%増と未婚率が高くなっている。

○男性で2000年（平成12年）に未婚であった人が10年後の2010年（平成22年）に既婚者になる確率は、

20代前半で約50%（88.7%⇒43.0%）、20代後半で約50%（64.1%⇒32.0%）、

30代前半で約34%（38.8%⇒25.7%）、30代後半で約16%（24.1%⇒20.2%）、

40代前半で約6%（17.6%⇒16.5%）

となっており、30代後半以降から結婚する確率が低くなっている。

○女性で2000年（平成12年）に未婚であった人が10年後の2010年（平成22年）に既婚者になる確率は、

20代前半で約66%（83.1%⇒28.0%）、20代後半で約65%（47.0%⇒16.4%）、

30代前半で約43%（21.1%⇒12.0%）、30代後半で約23%（9.6%⇒7.4%）、

40代前半で約0%（5.3%⇒5.3%）

(7) 地区別の人口変動

順位	地区	住基人口 2005/3/31	住基人口 2014/3/31	人口増減 率(対比)	年少人口 割合	生産年齢 人口割合	高齢化率
1	川跡	8,119	9,556	17.6%	17.2	62.9	19.7
2	伊波野	5,254	6,062	15.3%	15.9	64.5	19.5
3	直江	3,208	3,523	9.8%	15.7	60.0	24.1
4	四絡	10,215	11,210	9.7%	17.0	63.0	19.8
5	高浜	3,520	3,780	7.3%	15.6	57.8	26.5
6	高松	9,525	10,168	6.7%	15.5	61.3	23.0
7	出西	4,237	4,519	6.6%	15.4	58.9	25.5
8	神門	7,010	7,352	4.8%	15.8	58.8	25.3
9	荒木	6,001	6,114	1.8%	14.9	56.5	28.4
10	国富	2,985	3,019	1.1%	14.1	57.9	27.8
11	遙堪	2,364	2,387	0.9%	12.3	55.8	31.8
12	塩冶	14,591	14,672	0.5%	15.1	64.7	20.0
13	大津	9,414	9,413	0.0%	14.2	58.5	27.1
14	長浜	5,213	5,102	-2.1%	14.8	55.9	29.1
15	神西	3,813	3,715	-2.5%	13.4	59.1	27.3
16	今市	6,851	6,655	-2.8%	13.0	57.4	29.5
17	荘原	7,494	7,283	-2.8%	13.4	58.9	27.5
18	鳶巣	1,595	1,540	-3.4%	14.9	55.4	29.6
19	灘分	3,768	3,615	-4.0%	13.5	58.2	28.2
20	阿宮	542	518	-4.4%	8.6	55.4	35.9
21	湖陵	5,777	5,476	-5.2%	12.9	55.5	31.4
22	平田	7,440	7,041	-5.3%	12.8	57.1	30.0
23	古志	2,231	2,102	-5.7%	12.2	57.5	30.2
24	出東	4,477	4,213	-5.8%	11.8	58.2	29.9
25	久木	2,606	2,433	-6.6%	12.8	58.3	28.8
26	檜山	1,566	1,434	-8.4%	11.8	57.3	30.8
27	東	2,911	2,666	-8.4%	11.6	58.1	30.1
28	西田	1,945	1,775	-8.7%	10.5	54.9	34.5
29	多伎	4,111	3,732	-9.2%	10.8	53.3	35.8
30	上津	1,563	1,393	-10.8%	10.1	55.5	34.3
31	鰐淵	804	715	-11.0%	9.6	48.2	42.0
32	久多美	2,615	2,308	-11.7%	13.1	58.1	28.6
33	杵築	6,457	5,693	-11.8%	10.6	50.0	39.3
34	稗原	2,168	1,905	-12.1%	9.5	54.9	35.5

順位	地区	住基人口 2005/3/31	住基人口 2014/3/31	人口増減 率（対比）	年少人口 割合	生産年齢 人口割合	高齢化率
35	朝山	2,155	1,894	-12.1%	10.9	54.8	34.2
36	伊野	1,585	1,367	-13.7%	10.6	58.8	30.5
37	佐田	4,498	3,725	-17.1%	10.0	52.3	37.5
38	乙立	830	686	-17.3%	11.2	50.0	38.7
39	北浜	1,495	1,218	-18.5%	8.1	52.1	39.7
40	佐香	1,969	1,555	-21.0%	6.6	55.3	38.0
41	鵜鷺	294	230	-21.7%	4.3	33.4	62.1
42	日御碕	966	741	-23.2%	6.4	48.8	44.6
	市全体	176,182	174,505	-0.9%	13.9	58.6	27.3

地域別内訳

1	出雲	88,833	91,143	2.6%	15.0	60.3	24.6
2	平田	29,083	26,713	-8.1%	12.0	56.9	31.0
3	佐田	4,498	3,725	-17.1%	10.0	52.3	37.5
4	多伎	4,111	3,732	-9.2%	10.8	53.3	35.8
5	湖陵	5,777	5,476	-5.2%	12.9	55.5	31.4
6	大社	16,082	15,165	-5.7%	12.3	53.2	34.3
7	斐川	28,011	28,551	1.9%	14.2	60.0	25.7

※窪田・須佐は2地区合同で人口の増減率を把握している。

年少人口割合、生産年齢人口割合、高齢化率の数値については、2014年（平成26年）3月末現在。

【地区別の人口変動の分析】

○市全体では人口減少が進む中で、12地区が増加している。一方で残り31地区では人口減少が進んでいる。特に人口減少率の高い地区では高齢化率も高くなっており、コミュニティ維持が大きな課題である。

○地域別内訳では、出雲地域・斐川地域は増加しており、その他の地域では減少となっており、特に佐田地域の減少幅は大きい。